

大学教育再生加速プログラム(AP)全体報告会
2020年3月5日(木): 武蔵野大学 有明キャンパス

正課内外の学修成果の可視化を通じた 卒業時の質保証の取組

<コンテンツ>

- I) 取組概要(糸井重夫)
- II) APに参加して～学生目線での意見・感想～(忠地寿美礼)
- III) アンケートによる分析と評価(浜崎央)

松本大学松商短期大学部
糸井重夫・忠地寿美礼・浜崎央

取組の背景：変化の速い時代・労働力の国際競争の激化

(1) 短大に求められる教育の変化

「労働生産性の向上」⇒「労働力の質」⇒「能力(コンピテンス)の育成」
時代の変化に対応した「応用可能な能力(コンピテンス)の育成・向上

OECD平均以下の労働生産性
少子高齢化への対応
多文化共生社会への対応

(2) 「知識」から「能力(コンピテンス)」重視の教育への転換

「何を勉強したか」⇒「何ができるようになったか」
「インフォメーション(情報提供)型の授業」⇒「コミュニケーション(双方向)型の授業へ

急激な社会の変化
インターネットの普及
AI(人工知能)の発達

(3) 「コンピテンス」評価：パフォーマンス評価の導入

育成された「能力」を自ら評価し、主体的に学ぶ環境の整備
「ルーブリック」等による評価基準の客観化・可視化

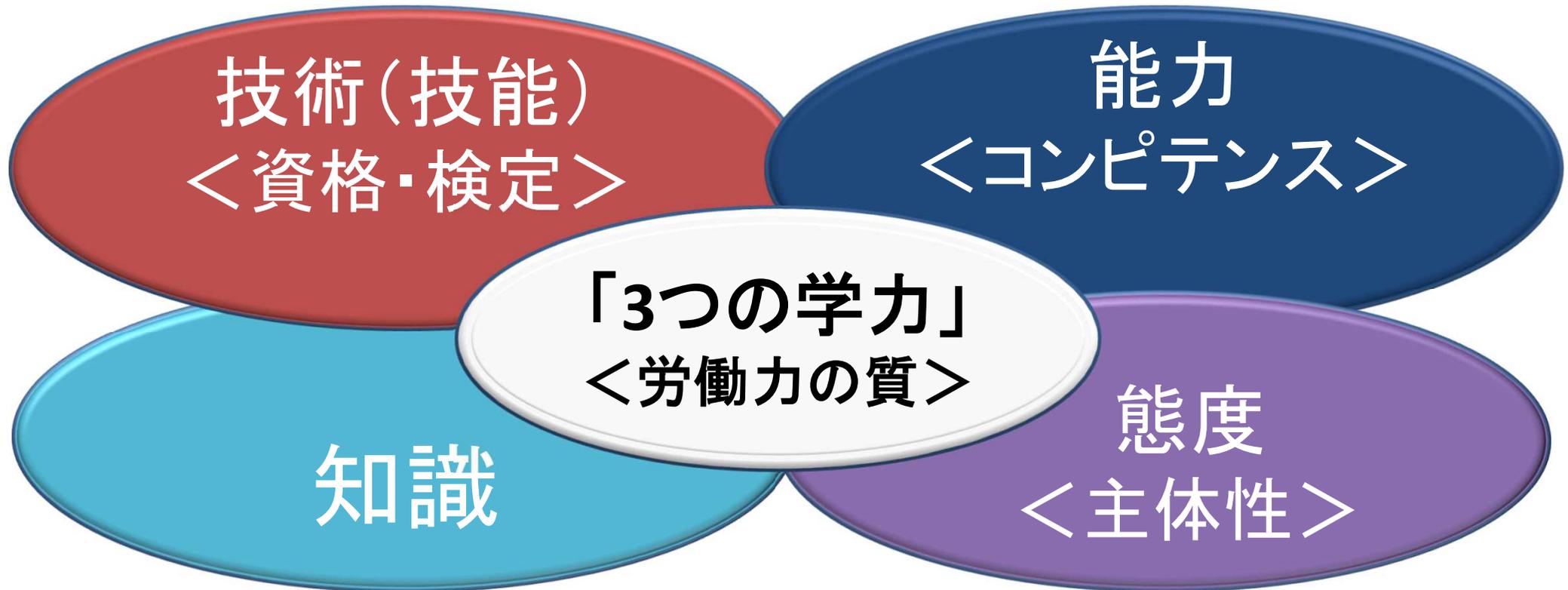
教育手法の工夫・改善・開発
教育評価の客観化・可視化
主体的学びの促進(自己認識)

(4) 学修成果・教育成果の社会に対する公表・可視化

主として“知識”の「成績表」に加えて、“能力”等の「ディプロマ・サプリメント」の発行

費用対効果
教育の質保証

本取組の考え方と教育改革の位置づけ

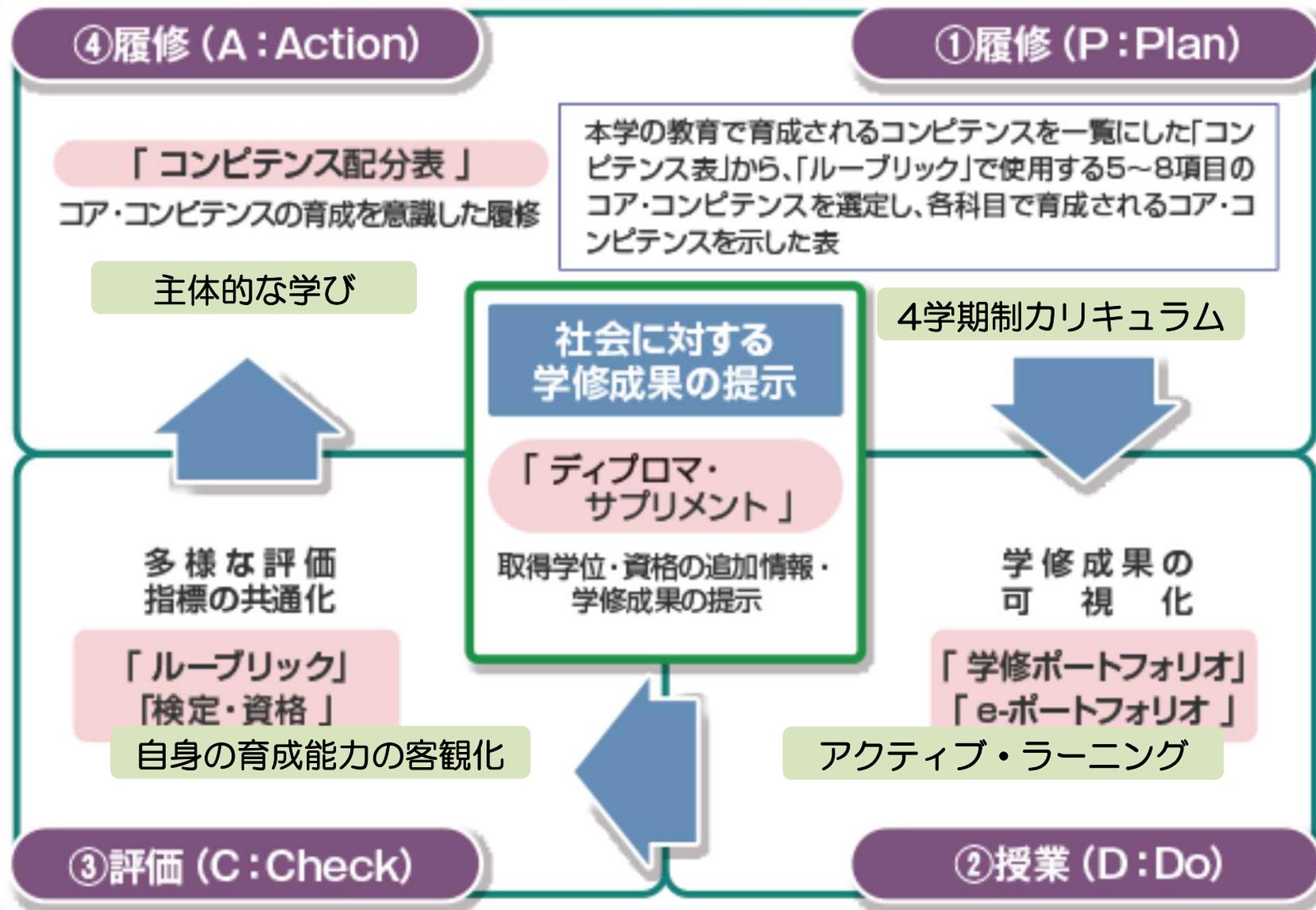


学修成果の可視化(教育の客観化)を通して「主体的な学び」を促進

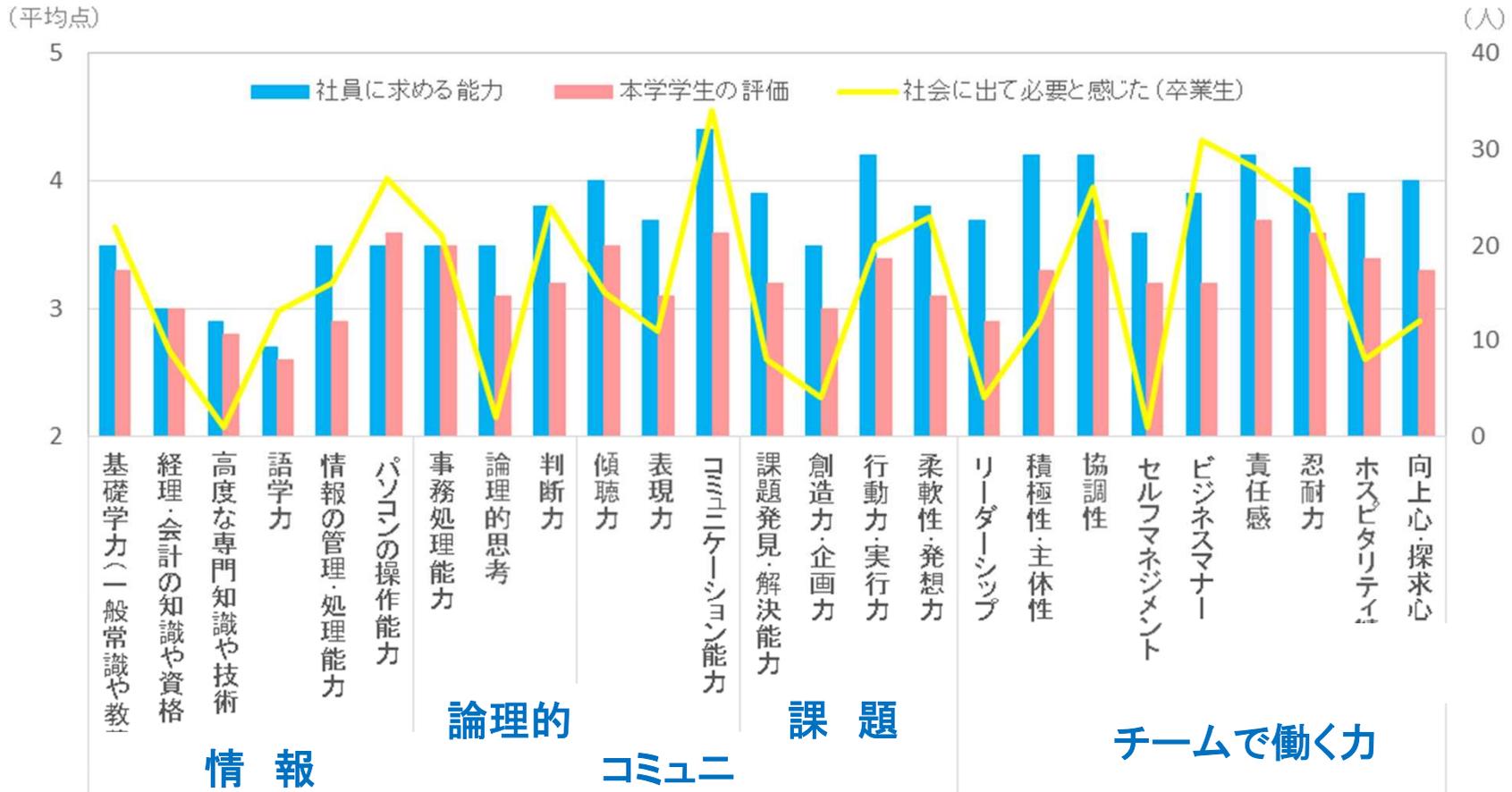
教育手法・評価・成果の可視化

- 対学生：学修目標・内容の可視化（シラバス、カリキュラムなど）
教育手法の可視化（アクティブ・ラーニング、e-ラーニングなど）
教育評価の可視化（シラバス、ルーブリックなど）
教育成果の可視化（「出席レポート」、成績表、検定・資格の合格書、
ディプロマ・サプリメントなど）
- 対教員：学修内容の可視化（授業参観、「出席レポート」など）
- 対企業：学修成果の可視化（成績表、ディプロマ・サプリメントなど）

「主体的学び」「能動的態度」の育成⇒授業・カリキュラム再編



企業・卒業生アンケートの結果と活用



＜5つのコア・コンピテンスに再整理＞
 「情報リテラシー」・「コミュニケーション力」・「論理的思考」・「課題解決力」・「チームで働く力」

ルーブリック

○情報リテラシー：必要な情報を収集し、取捨選択した上で、適切に活用することができる。

1+	2+	3+	4+	5+
必要な情報を、指示にしたがって集めることができる。	必要な情報を、技術を使ったりするなど、目的に応じた方法で集めることができる。	必要な情報を、技術を使ったりとともに、目的に応じて複数の方法で集め、活用することができる。	必要な情報を、技術を使ったりとともに、目的に応じて複数の方法で集め、取捨選択した上で情報処理、分析を行い、適切に活用することができる。	必要な情報を、技術を使ったりとともに、目的に応じて複数の方法で工夫して集め、信頼性が高い情報を精査するなど取捨選択した上で、主体的により効果的な手法を探究し、情報処理、分析を行い、適切に活用し、独自の見解を加えて発信することができる。

○論理的思考力：本質を理解し、根拠に基づき考え、明確に説明することができる。

1+	2+	3+	4+	5+
事象を整理し、理解しようとするができる。	事象を整理し、理解した上で、考えをまとめることができる。	事象を整理し、本質を理解した上で考えをまとめ、説明することができる。	事象を整理し、本質を理解した上で、根拠に基づいて考えをまとめ、筋道を立てて明確に説明することができる。	事象を整理し、本質を理解した上で、主体的に根拠に基づいて考えをまとめ、多角的な視点を持ちながら、客観的に判断することができる。理解を得られるよう、筋道を立てて明確に説明し、相手を納得させることができる。

○コミュニケーション力：他者を尊重し、相互理解しようと努め、関係を分かち合うことができる。

1+	2+	3+	4+	5+
受容的態度で相手の意見を聞き、理解しようと努力することができる。	受容的態度で相手の意見を聞き、正しく理解し、自分の意見を伝えることができる。	受容的態度で相手の意見を聞き、正しく理解し、自分の意見を伝えることができる。相	受容的態度で相手の意見を聞き、正しく理解し、自分の意見を伝えることができる。相手を尊重し、相互理解に努め、議論や発表	受容的態度で、相手の意見を人物理解や状況把握にも繋がるように傾聴し、正しく理解することができる。また、自分の意見を円滑に伝えようと工夫することができる。相手を尊重し、相互理解に努め、自分とは異なる意見を

2017年度入学生「コンピテンス配分表」

1年生前期科目

1年生後期科目

色塗りされていない科目は、2年生科目です

科目名	担当教員	単位数	1年				2年				コンピテンス配分表		
			前期		後期		前期		後期		情報リテラシー	論理的思考力	コミュニケーション力
			1	2	3	4	1	2	3	4			
基礎簿記Ⅰ(初級/中級/上級)	山田・吉澤/木下/香取	1	◎2									○	
基礎簿記Ⅱ(初級/中級/上級)	山田・吉澤/木下/香取	1		◎2								○	
Word入門/初級/中級/上級	内川 小百合 他	1	◎1										
Excel入門/初級/中級/上級	河西・花里・松澤・矢野口・駒村・永田・浜崎	1	◎1	◎1	◎2								
English Ⅰ	松原(健)・松原(浩)・黒澤・布施	1	◎1									○	
商業簿記Ⅰ	山田・木下・香取・太田	1			◎2							○	
工業簿記Ⅰ	木下 眞博・吉澤 聡	1			◎2								
商業簿記Ⅱ	山田・木下・香取・太田・吉澤聡	1				◎2						○	
工業簿記Ⅱ	木下 眞博・吉澤 聡	1					◎2						
簿記演習	山田・木下・香取	1			集中							○	
検定簿記	山田 眞彦・香取 智直・太田 聡	2					◎2					○	
原価計算	吉澤 聡	2						◎1					
コンピュータ会計	山田 眞彦・吉澤 聡	2						◎1			○	○	○
財務会計	香取 智直	2								◎1		○	○
管理会計	山田 眞彦	2								◎1		○	○
経営分析	木下 眞博	2								◎1		○	○
ビジネスとワープロ	内川 小百合 他	1			◎2								
データベース初級/中級	河西/浜崎・駒村・永田	1						◎1					
データベース中級/上級	河西/駒村・永田	1								◎2			
ホームページ作成入門	矢野口 聡・永田 綾子	1							◎2				
簿記演習Ⅱ	永田・花里・駒村	1						◎1					

松本大学松商短期大学部
ディプロマ・サブリメント(案)

Sample(本資料は一部抜粋です)
本ディプロマ・サブリメントに関する詳細情報
は、3ページ以降に示している

1. 学位・資格の取得者に関する情報 (資格保有者)

1.1 姓 商短	1.2 名 一子
1.3 生年月日(西暦) 1998/5/26	1.4 国籍 日本
1.5 在学時学籍番号 17CorM999	

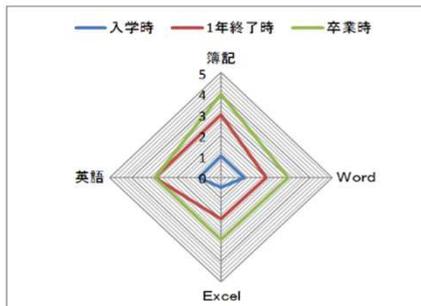
2. 学位・資格の基本情報 (資格)

2.1 学位 短期大学士	2.2 獲得称号 商学 or 経営情報学
2.3 授与機関の名称 松本大学松商短期大学部	種別 私立短期大学
2.4 教育/学修において使用する言語 日本語	

2.5 資格・検定

	入学時	1年 終了時	卒業時
簿記	日商3級	日商準2級 全経3級	日商2級
Word	なし	ビジネス文書 準2級	ビジネス文書 準2級
Excel	表計算 3級	表計算 準2級	表計算 2級
英語	TOEIC Bridge 124点	TOEIC Bridge 148点	TOEIC Bridge 172点
秘書	なし	秘書検定 不合格	秘書検定 3級

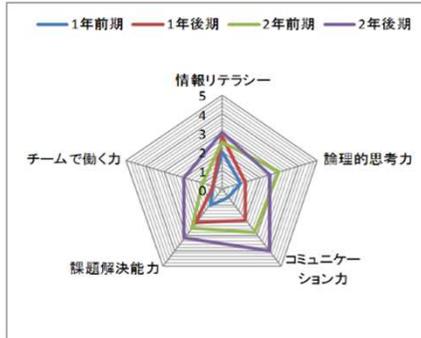
主要資格・検定
英検3級、医療事務検定3級(医科)、小原流初等科
免許状 他●資格



2.6 コンピテンシー

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期
情報 リテラシー	2	2.8	2.5	3
論理的 思考力	1	1.2	3	2.5
コミュニケー ション力	0.5	2	2.8	4
課題解決 能力	1	2.2	2.5	3.2
チームで 働く力	0.5	0.5	1	2

※コンピテンシーはルーブリックに基づいて
評価された、各期の平均点を表示している



3. 学位に関する情報

3.1 履修形態
一般学生(Full Time)

3.2 卒業要件
1. 卒業時まで、62単位以上の単位を修得していること。
2. すべての必修科目を修得していること。
3. 選択必修科目8科目中、8単位以上を修得していること。
4. 教養科目(フィールド⑨~⑫)を10単位以上修得していること。

3.3 成績を補足する情報
■GPA
2.46
■表彰
総代、上野賞、赤羽賞、平成●●年度地域貢献大賞、平成●●年度学長賞、平成●●年度●期学業成績優秀賞 等

3.4 正課外活動
インターンシップ、クラブ活動、学生会活動、地域づくり考房ゆめ活動 等

4. プログラム(課程)内容と学修成果に関する情報

4.1 GPA制度について
学業成績を総合評価のポイントで表す。この数値をGrade Point Average = GPAといい、各科目の成績を以下のとおりポイント化する。
S(秀)→4, A(優)→3, B(良)→2, C(可)→1, D(不可, R(出席不足), J(受験せず)含む)→0
その上で、各科目のポイントにその単位を乗じた値の合計を、履修登録した単位数の合計で除し、総合評価ポイントとする。
GPA = (各科目のポイント × 各科目の単位数) / 履修登録の総単位数
不合格科目(D)を再履修合格した場合は、それ以前の評価に代わり、最後の評価をGPAに算入する。

4.2 資格・検定のポイントについて
ポイント換算方法の説明を入れる。

4.3 コンピテンシーの採点方法について
採点方法の説明を入れる。

5. ディプロマ・サブリメントの発行に関する情報

本ディプロマ・サブリメントは、以下の原本を参照している。

5.1 学位記発行日	2019/3/18
5.2 成績反映時期	2018年度後期
5.3 証明書日付	2019/3/18

以上のことを証明する。

松本大学松商短期大学部
学長 住吉 廣行公印

新たな時代・変化の速い時代に対応した教育手法・教育システムが必要

修得する教育から活用する教育へ・・・受動的な学修から能動的(主体的)な学修へ

多面的な学生の知識・技術・能力の把握・・・直接評価と間接評価の充実

グローバル化に対応した高等教育の質保証・・・内部質保証と外部質保証

入学前から卒業後までの学生情報の把握と支援・・・EM・IR活動の充実

多様な教育資源の活用・・・インターンシップ、海外留学、ボランティア活動等の充実

「チームAP」で実施・・・大学教育の質的転換

主体的・能動的学修、アクティブラーニング、パフォーマンス評価、観点別評価、ルーブリック、直接評価(テスト、ルーブリックなど)、間接評価(学生アンケート、GPA、企業アンケートなど)ディプロマサプリメント、内部質保証、入試改革、高大接読・連携、企業連携、外部評価など

Ⅱ) APに参加して

～学生目線での意見・感想～

Interactive English(i ~ iv)

授業外での学習を重視した、**反転授業型**の講義。

一般的な講義科目と異なり、学生同士で学び合うというやり方で、学生の**主体性を尊重**している。

各学生が**自分のレベルに合わせて学習**できるため、英語に対して**苦手意識がある人でも取り組みやすい**。

1 学期約 8 週間あり、1 週間を 1 サイクルとして繰り返し学習する。

1 学期のみの受講も可能。

4 学期通して受講することで、英語をより身近なものにし、継続した学習を行うことができる。

1週間の学習の流れ（1サイクル）

動画についての意見交換。
今週のテーマの説明を受け、
内容を考える。

Tuesday
(講義日)

テーマについて考え、英文
を作成する。添削用に日本語も。
他の人のテキストを見て、意見やアドバイスを
用意しておく。

Monday

Wednesday

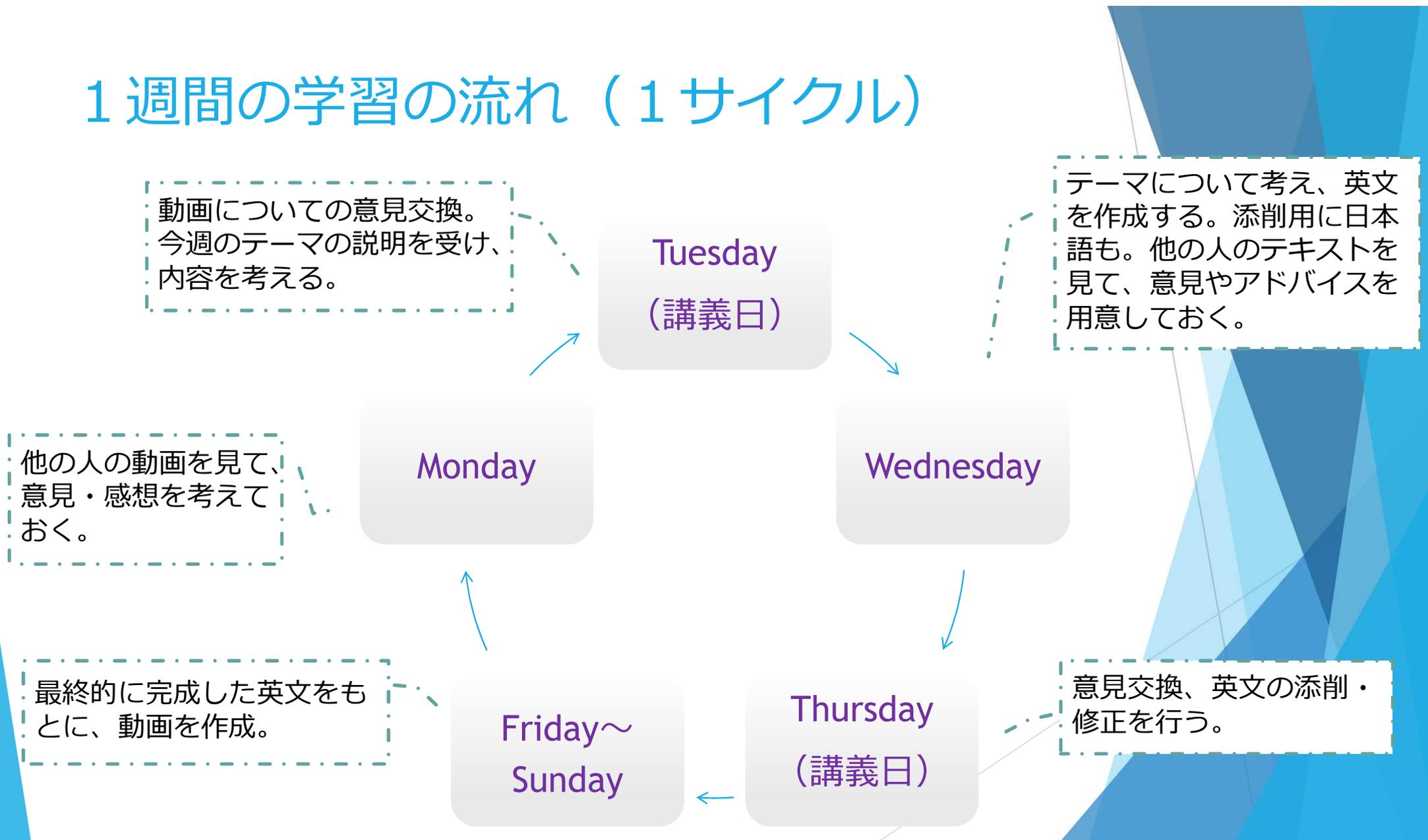
他の人の動画を見て、
意見・感想を考えて
おく。

最終的に完成した英文をも
とに、動画を作成。

Friday~
Sunday

Thursday
(講義日)

意見交換、英文の添削・
修正を行う。



作文例（テーマ：家庭での習慣）

Hello, everyone. My name is Sumire. I am a junior college student.

・・・冒頭で簡単な挨拶、最近あったことなどを述べる

Today, I will talk about my daily routine in my family. I make it a habit to go to bed and wake up early. I was poor to study late into the night from childhood. So, my mother said to me that you should study in the early morning.

・・・テーマについて、自分の意見を述べる。自身のエピソードを加えるとより具体的になり、伝わりやすい。

Could you tell me about your customary daily schedule?

・・・アメリカのパートナーとの学生との交換動画の場合は、最後に質問をすることで、相手のことを知ろうとしている意志を伝える。

↑ 文法の修正などに使用するため、日本語訳も付けます。

テキストの確認・修正

I will talk **about festival** held in Matsumoto. My favorite festival is Soba festival at **(the)** Matsumoto castle. At the festival, there are many soba noodle shops. We eat soba cookies too. Soba has many attractive **point**.

作成したテキストをクラスメイトがチェックして、色を変え、間違っているところを教えてくれる。



I will talk about a festival held in Matsumoto. My favorite festival is Soba festival at Matsumoto castle. At the festival, there are many soba noodle shops. We eat soba cookies too. Soba has many attractive points.

色が変わっているところを直し、黒字に戻す。各自使用する色が決まっているため、分からないことがあればその人に質問できる。

講義内での意見交換・発表

意見交換は基本的に、全員が**立って**ペアになって行う。

ペアの相手を交換し、**多くの人と話し合う**ことができるようになっている。

前半はペアで意見交換、後半は全員の前で発表という**二段階にする**ことで、人前で話すことにステップを踏んで慣れる仕組み。

講義中、長時間座り続けると欠いてしまいがちな**集中力**も、立って行う話し合いを挟むことで、維持しやすくなる。

ペアでの意見交換の際、相手の話をいかに**聴く**ことができているかも重要となる。

英語であるから余計に、**ポイントを押さえて、覚えておく力**が養われる。

聴くだけでなく、その考えを聴いたうえでの自身の意見も述べることで、**思考力**もつく。

英作文や動画を**クラスメイトと共有する**ことで、人に見られているという意識が強くなり、作成期限を守ったり、ミスのないよう何度も見直ししたりするようになる。

真似をする事はあまり良くないとされているが、学習では**他から学ぶことも多い**。

自分のテキストと比較し、自分に足りないところを見つけ、どう書けばいいのかなどを英語が得意な人から学ぶ。

スマートフォンを使いテキストや動画を作成しているので、空きコマや通学中など**空いた時間を活用して学ぶ**ことができる。

アメリカの学生とのやり取りでは、文化や習慣などの違いを学ぶだけでなく、言葉の違いを認識したうえでどのように伝えれば良いのかを考え、実行するという**コミュニケーション能力**が高まる。

この講義を通して、**英語力だけでなく考える力や伝える力**がつく。

評価・反省

学期末に、【teacher assessment】（担当教員からの評価）を**全員で確認**する。

なぜそのような評価になったのか、動画作成において工夫した点や、テーマに沿って文章を考える時に気をつけたことなどを踏まえて、発表する。

次の学期では**どのように改善すべきか**、他の発表を受けて考える。

評価自体を変えることは出来ないが、教員が正当に評価しているのかを**学生の視点からも確認**できる。

講義内に振り返りが含まれているため、次学期の目標を立てやすい。

P D C Aを、1週間と、1学期という二つの区切りで実行できるので、学習を継続しやすい。

4 学期を通した全ての講義の終了で、学習が終わってしまうのではなく、**2 年次や卒業以降も英語の学習を続けていけるモチベーション**を得ることができた。

学びに積極的になる、**自己の成長を実感できる学習**方法や環境が整えられていた。

主体的な学びは、そのひとの今後の可能性を増やすことにつながると思う。

私自身が、「Interactive English」の講義を通して、将来本当にやりたいことを見つけることができました。

大学で学ぶことを選択したのは自分自身でも、その環境によって、得られるものは大きく変わります。教える側、学ぶ側の関係性を見つめなおすことで、よりよい教育へとつながるのではないかと思います。

Ⅲ) アンケートによる分析と評価

松商短期大学部 浜崎 央

Ⅲ) アンケートによる分析と評価

本学のAP事業「卒業時における質保証の取り組みの強化」

1. 3つのポリシーに基づく教育活動の実施
 - ① カリキュラム改革：**4学期制の導入**
2. 卒業段階でどれだけの力を身に付けたかを客観的に評価する仕組み
 - ② 学修ポートフォリオの見直し（eポートフォリオシステムなど）
 - ③ 5段階評価分布の公表
 - ④ **指標の整備（コンピテンスの設定/ルーブリックの開発/コンピテンス配分表）**
3. 学生の学習成果を目に見える形で社会に提示するための手法
 - ⑤ **ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）**
4. 助言・評価の仕組み
 - ⑥ FD・SD、外部評価委員会、**アンケート調査**

- **在学生**アンケート（2017年度入学生）
- **企業**アンケート（卒業生の就職先）
- **卒業生**アンケート（1年目・3年目・5年目・10年目・20年目の卒業生）

(1) 「4学期制の導入」に対する評価

(1) 「4学期制の導入」に対する評価

1. 3つのポリシーに基づく教育活動の実施

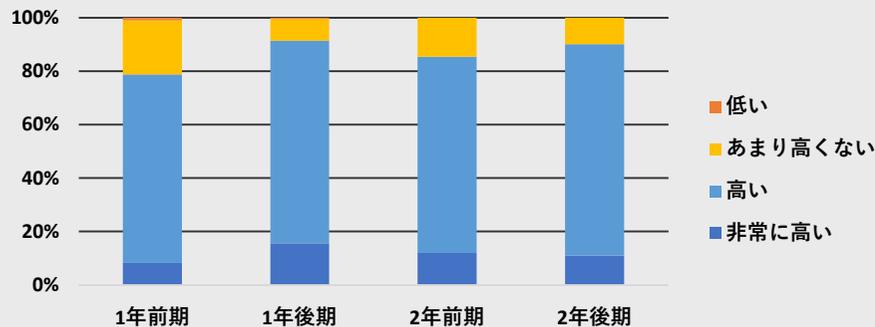
① カリキュラム改革：4学期制の導入

H28(2016年度) 数科目の授業で実施

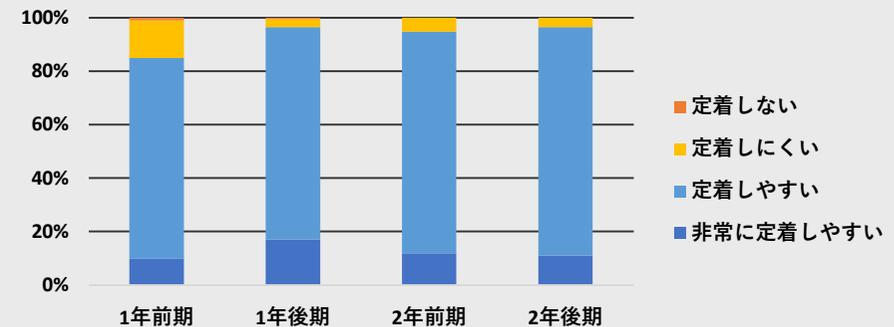
H29(2017年度) 1・2年生の一部科目で実施

H30(2018年度) 1年生の全科目 + 2年生の一部科目で実施

(1) 週複数回授業は、週1回授業と比較して、学習効果が高いと思いますか。



(2) 週複数回授業は、週1回授業と比較して、講義内容が定着しやすくなりましたか。



2017年度入学生アンケート(各学期終了後に実施・約200人)より

(2) 「指標（コンピテンス）」に対する評価

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ①在学学生アンケートによる分析結果

- 対象 2017年度入学生 221人
- 実施時期 1・2年 前・後期終了後 4回
- 回答数 約200人
- 方法 ネットアンケート
- 設問

- ・『学習目標到達度チェックシート』
5つのコンピテンスをルーブリックに従って学生自身が自己評価
- ・『身に付いた能力に関する自己評価アンケート』
25項目に関して、学生自身に4段階で自己評価

知識・技能

(1)情報リテラシー

(2)論理的思考力

(3)コミュニケーション力

(4)課題解決力

(5)チームで働く力

①基礎学力(一般常識や教養) ②経理・会計の知識や資格 ③高度な専門知識や技術 ④語学力

⑤情報の管理・処理能力 ⑥パソコンの操作能力 ⑦事務処理能力

⑧論理的思考力 ⑨判断力

⑩傾聴力 ⑪表現力 ⑫コミュニケーション能力

⑬課題発見・解決能力 ⑭創造力・企画力 ⑮行動力・実行力 ⑯柔軟性・発想力

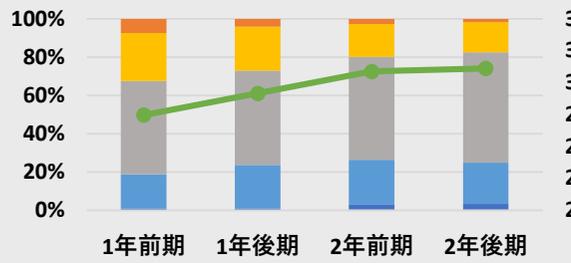
⑰リーダーシップ ⑱積極性・主体性 ⑲協調性 ⑳セルフマネジメント ㉑ビジネスマナー ㉒責任感 ㉓忍耐力 ㉔ホスピタリティ精神 ㉕向上心・探求心

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ①在学学生アンケートによる分析結果

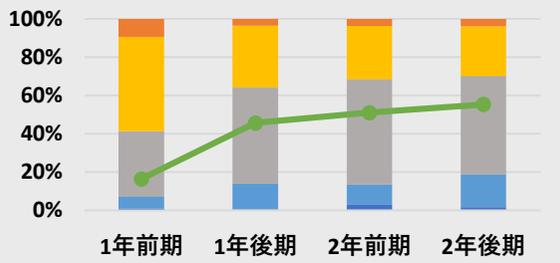
在学学生アンケート『学習目標到達度チェックシート』

5つのコンピテンスをルーブリック(5段階)に従って学生自身が自己評価 (各学期末)

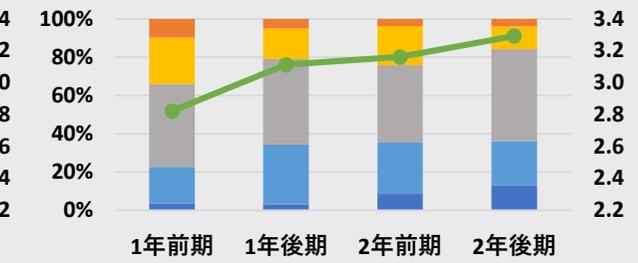
(1) 情報リテラシー



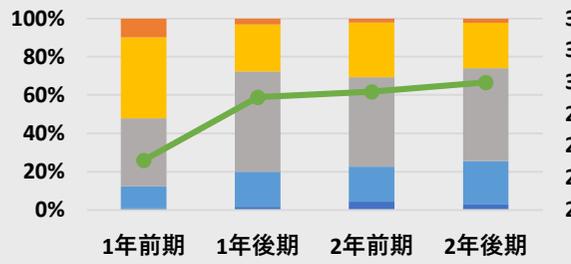
(2) 論理的思考力



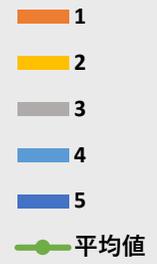
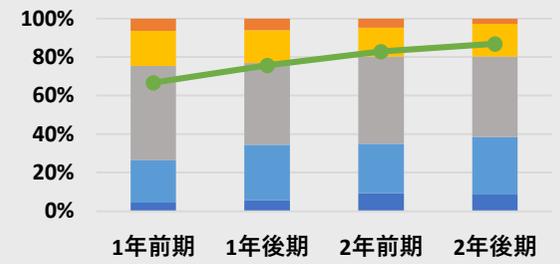
(3) コミュニケーション力



(4) 課題解決能力



(5) チームで働く力



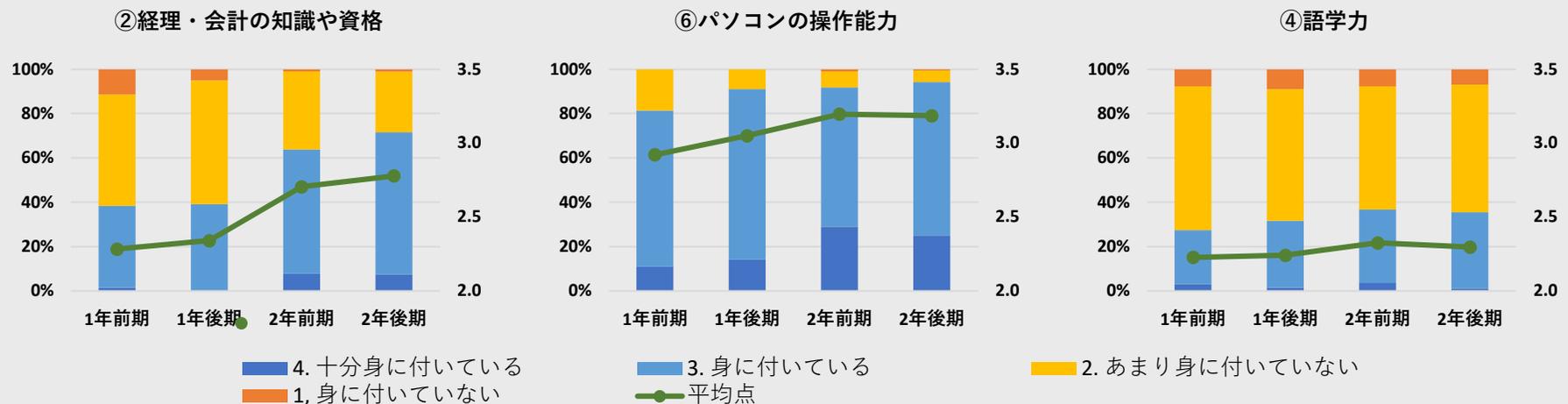
すべての項目で上昇
 1年次で大きく上昇：(2)論理的思考力、(4)課題解決能力
 卒業の最後まで上昇：(3)コミュニケーション、(5)チームで働く力
 ➡入学時点からの比較を行いたかった

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ①在学学生アンケートによる分析結果

在学学生アンケート『身に付いた能力に関する自己評価アンケート』

25項目に関して4段階で学生自身が自己評価（各学期末）

例えば、本学の必修科目



25項目のほぼすべてが上昇している

②経理・会計：2年次で成長・最後まで伸び続ける

⑪表現力 ⑭ホスピタリティ精神

⑥パソコン：1年次で成長

③高度な専門知識 ⑦事務処理能力 ⑧論理的思考力

④語学：あまり変化がない

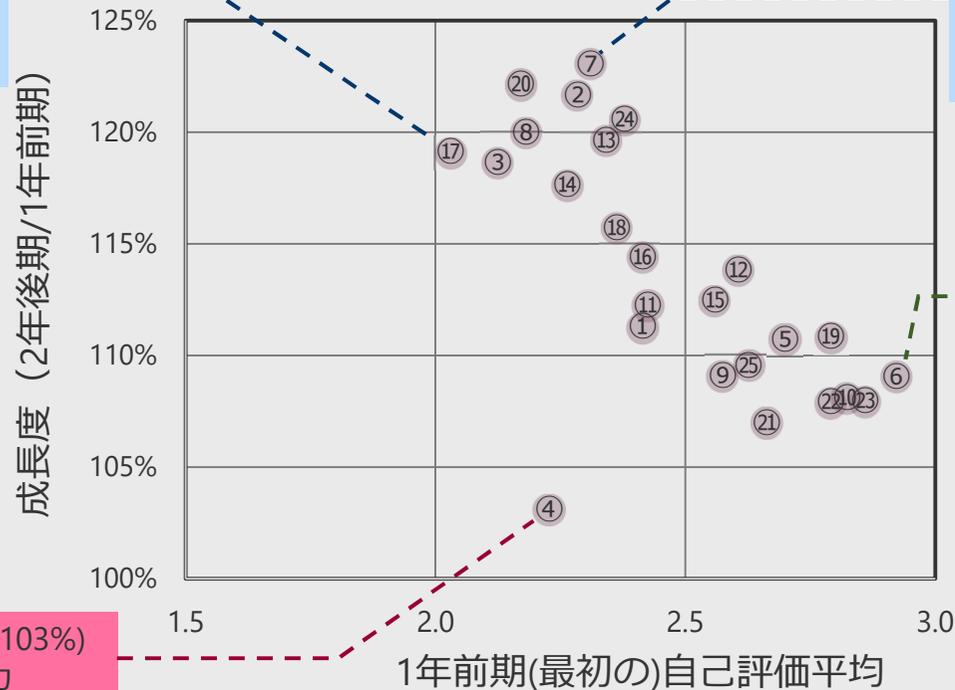
⑫ビジネスマナー ⑫責任感 ⑬忍耐力 ⑩傾聴力

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ①在学学生アンケートによる分析結果

在学学生アンケート『身に付いた能力に関する自己評価アンケート』

25項目に関して4段階で学生自身が自己評価（各学期末）

最初(1年前期)が最小
2.14 → 2.42 (119%)
⑰リーダーシップ



成長度1位(123%)
2.31 → 2.84
⑦事務処理能力

最初(1年前期)が最大
2.92 → 3.19 (109%)
⑥パソコンの操作能力

2.23 → 2.30 (103%)
④語学力

もともと自己評価が低いものは、成長度が高い
逆に、もともと自己評価が高いものは、成長度が低い
例外が ④語学力

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ②企業アンケートによる分析結果

10

- 対象 本学卒業生が過去10年に就職した企業 518社
- 実施時期 2017年(247社発送)・2019年(271社発送) 12月
- 回答数 185社 (36%)
- 方法 郵送 & Webアンケート
- 設問 25項目について
 - ・社員に求める能力 (1(低い)~5(高い) の5段階)
 - ・本学卒業生の評価 (1(低い)~5(高い) の5段階)

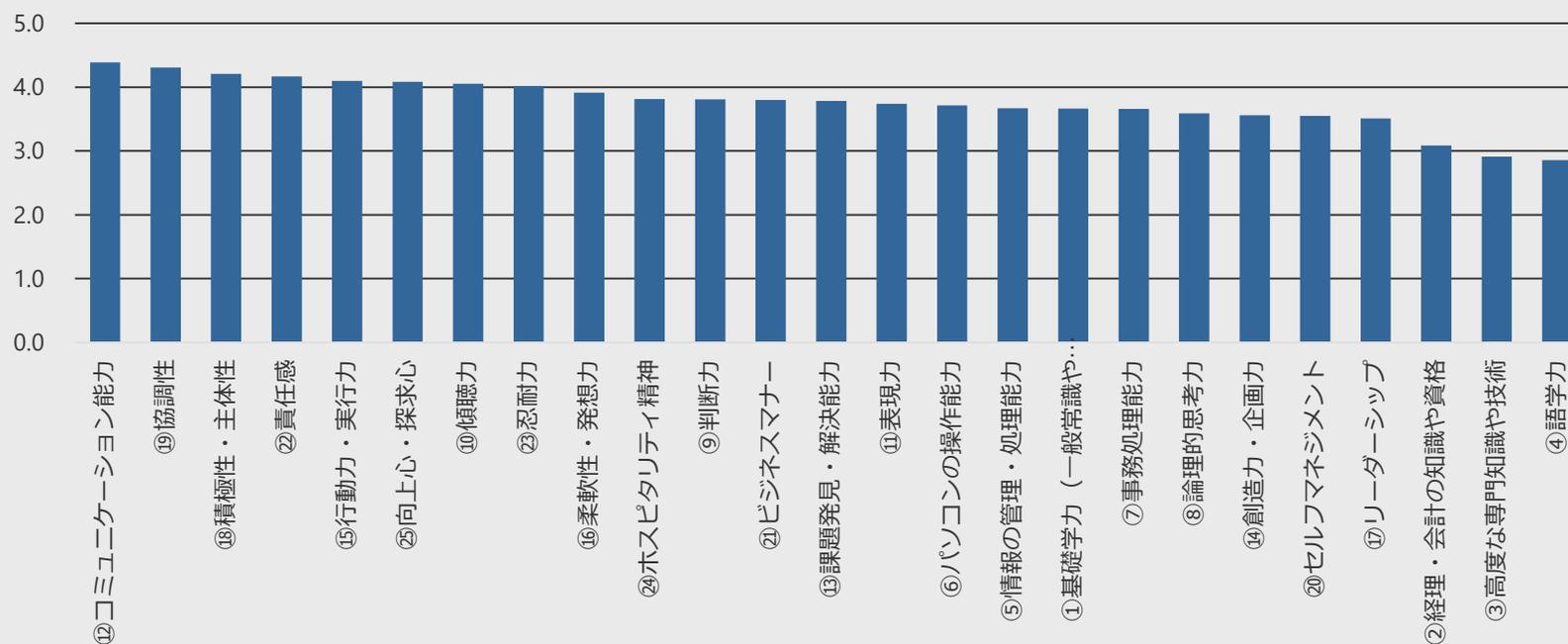
知識・技能

- ①基礎学力(一般常識や教養) ②経理・会計の知識や資格 ③高度な専門知識や技術 ④語学力
- (1)情報リテラシー ⑤情報の管理・処理能力 ⑥パソコンの操作能力 ⑦事務処理能力
- (2)論理的思考力 ⑧論理的思考力 ⑨判断力
- (3)コミュニケーション力 ⑩傾聴力 ⑪表現力 ⑫コミュニケーション能力
- (4)課題解決力 ⑬課題発見・解決能力 ⑭創造力・企画力 ⑮行動力・実行力 ⑯柔軟性・発想力
- (5)チームで働く力 ⑰リーダーシップ ⑱積極性・主体性 ⑲協調性 ⑳セルフマネジメント ㉑ビジネスマナー ㉒責任感 ㉓忍耐力 ㉔ホスピタリティ精神 ㉕向上心・探求心

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ②企業アンケートによる分析結果

企業アンケート『貴社が社員に求める能力』

25項目について、それぞれを5段階(5高い~1低い)で評価していただいた平均値



上位3項目 ⑫コミュニケーション能力 ⑲協調性 ⑱積極性・主体性
➔ 「コミュニケーション力」+「チームで働く力」

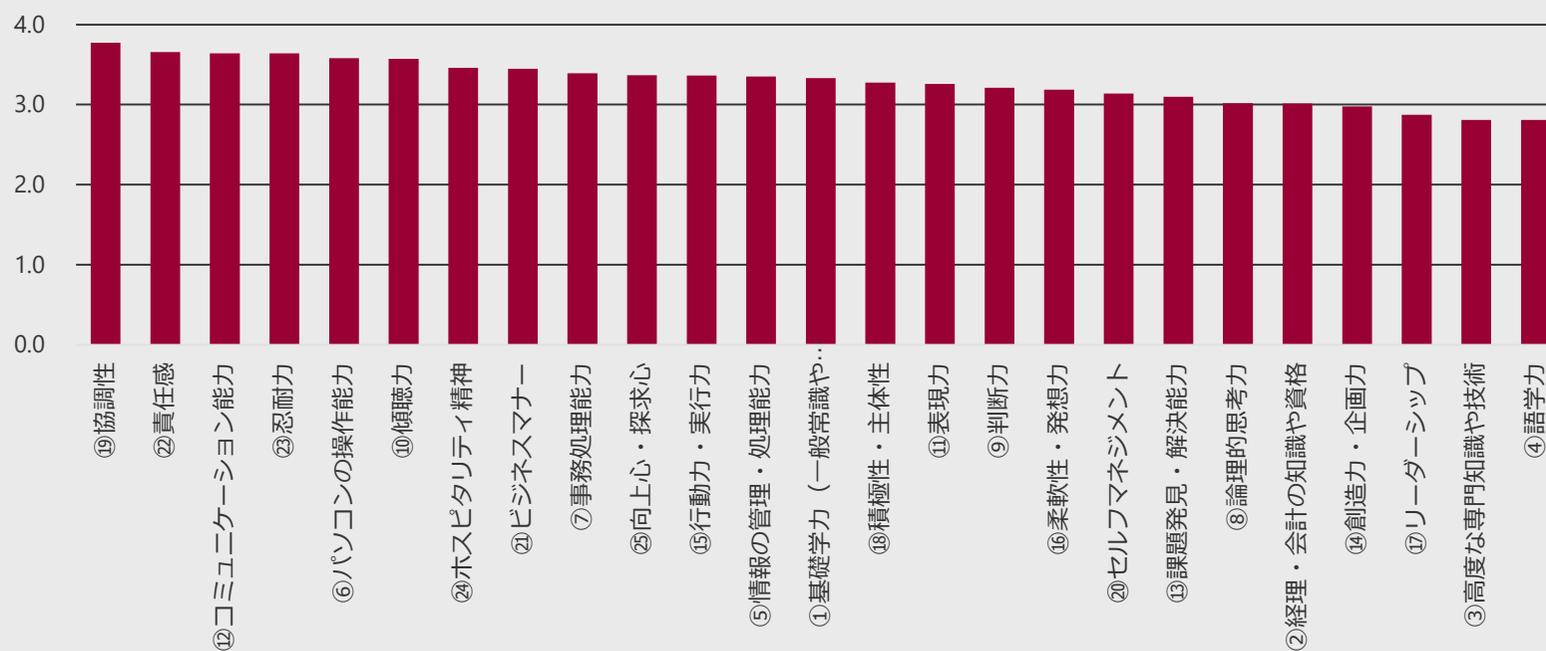
下位3項目 ④語学力 ③専門知識 ②経理・会計
➔ 「知識・技能」

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ②企業アンケートによる分析結果

12

企業アンケート『採用した本学卒業生の評価』

25項目について、それぞれを5段階(5高い~1低い)で評価していただいた平均値



上位3項目 ⑱協調性 ⑳責任感 ㉒コミュニケーション力
→ 「チームで働く力」

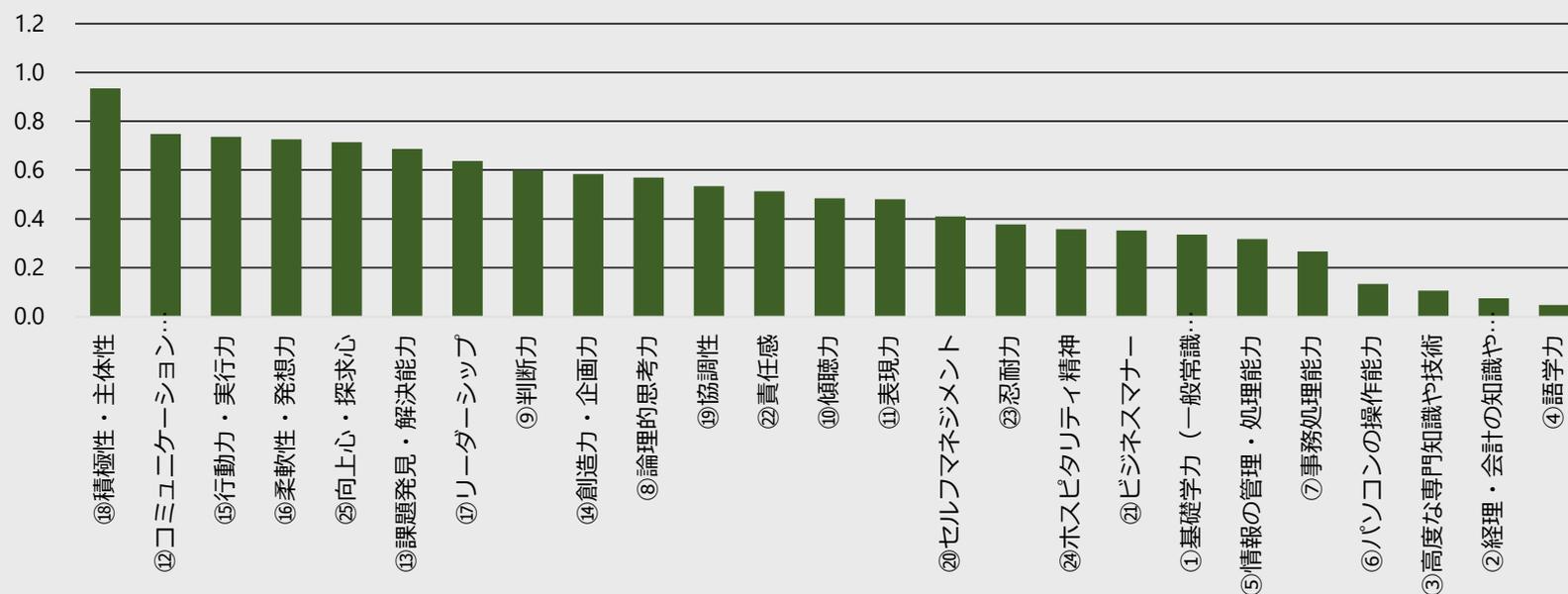
下位3項目 ④語学力 ③専門知識 ⑰リーダーシップ
→ 「知識・技能」

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ②企業アンケートによる分析結果

13

企業アンケート『求める能力と卒業生の評価の差』

25項目について「企業の社員に求める能力の平均値」から「採用した本学卒業生の評価の平均値」を引いた差 = 本学の卒業生に足りない能力



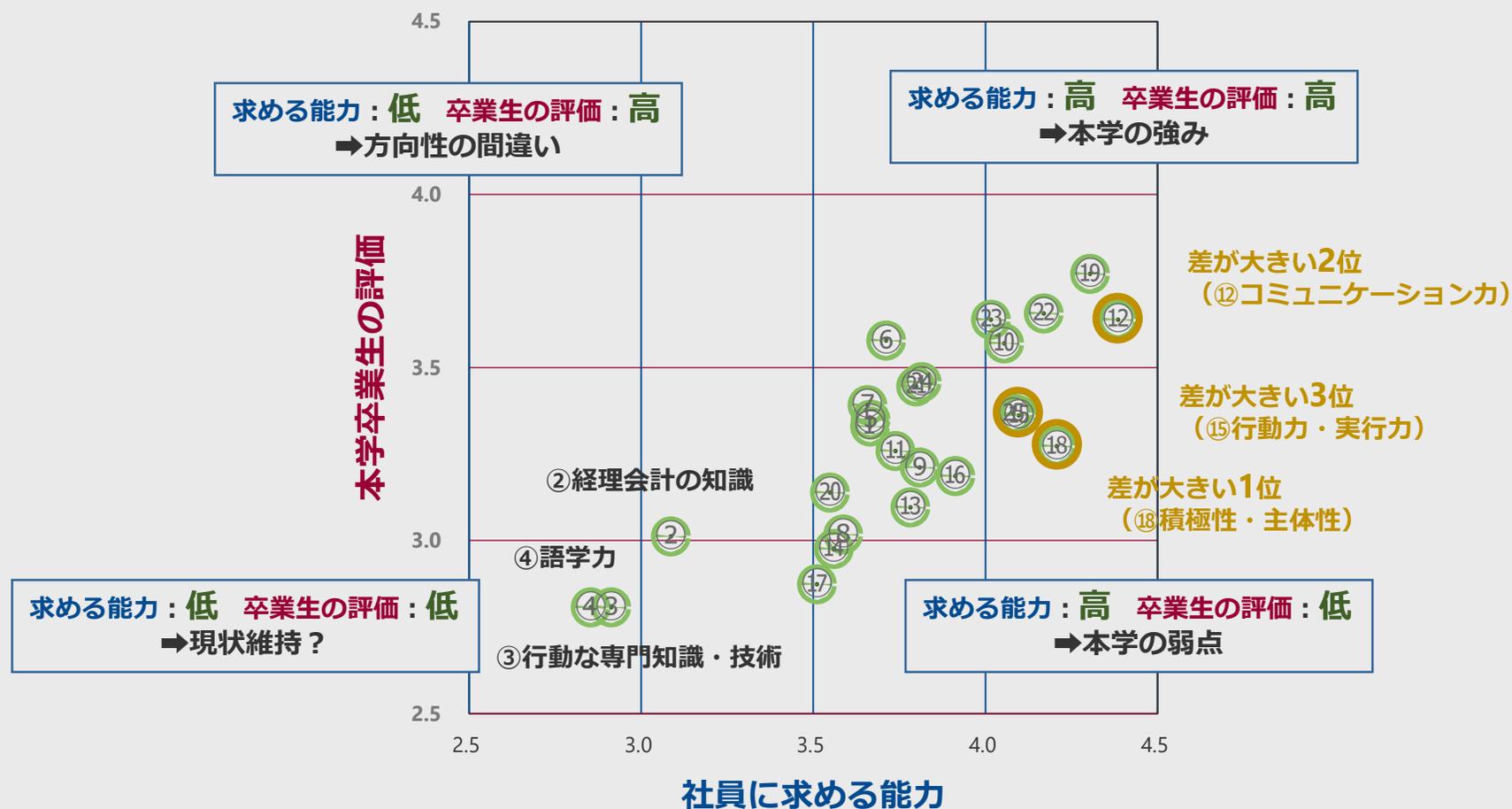
上位3項目 ⑱積極性・主体性 ⑫コミュニケーション力 ⑮行動力・実行力
➔ 自分から行動する力

下位3項目 ④語学力 ②経理・会計 ③専門知識 ⑥パソコンの操作
➔ 「知識・技能」

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ②企業アンケートによる分析結果

企業アンケート

「企業の社員に求める能力の平均値」と「採用した本学卒業生の評価の平均値」の相関



(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ③卒業生アンケートによる分析結果

15

- 対象 本学卒業生（卒業後1年目・3年目・5年目・10年目・20年目）
- 実施時期 2016年・2017年・2018年・2019年 12月～1月
- 回答数 1年目:134人、3年目:85人、5年目:74人、10年目:26人、20年目:34人計353人
- 方法 郵送・Webアンケート
- 設問

卒業後の状況や在学時の満足度など 全20問

Q15. 社会に出て、何が必要だと感じましたか？

(以下の25項目から複数回答可)

知識・技能

(1)情報リテラシー

(2)論理的思考力

(3)コミュニケーション力

(4)課題解決力

(5)チームで働く力

①基礎学力(一般常識や教養) ②経理・会計の知識や資格 ③高度な専門知識や技術 ④語学力

⑤情報の管理・処理能力 ⑥パソコンの操作能力 ⑦事務処理能力

⑧論理的思考力 ⑨判断力

⑩傾聴力 ⑪表現力 ⑫コミュニケーション能力

⑬課題発見・解決能力 ⑭創造力・企画力 ⑮行動力・実行力 ⑯柔軟性・発想力

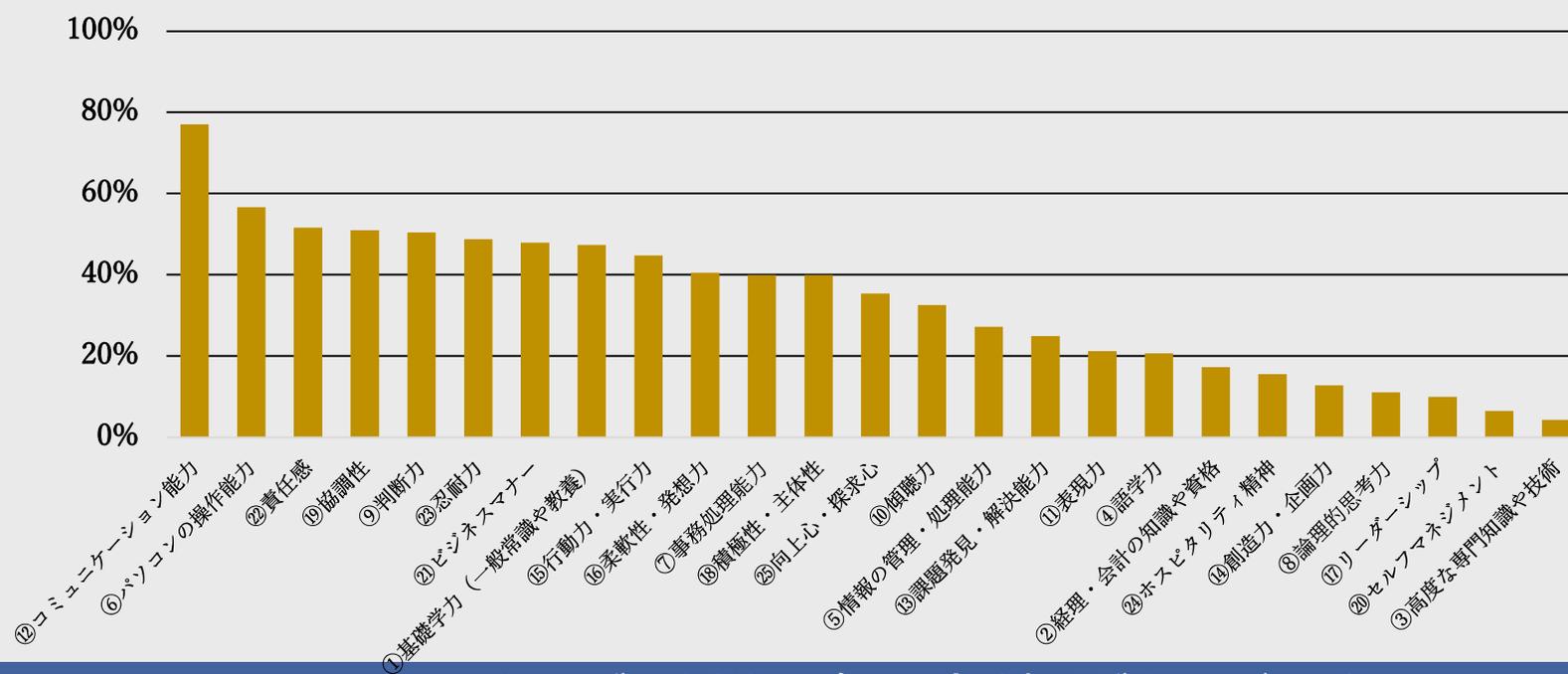
⑰リーダーシップ ⑱積極性・主体性 ⑲協調性 ⑳セルフマネジメント ㉑ビジネスマナー ㉒責任感 ㉓忍耐力 ㉔ホスピタリティ精神 ㉕向上心・探求心

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ③卒業生アンケートによる分析結果

16

卒業生アンケート『**社会に出て必要だと感じた能力**』（回答数353名）

25項目に関して、卒業生自身に○をつけてもらう形（複数回答可）で回答

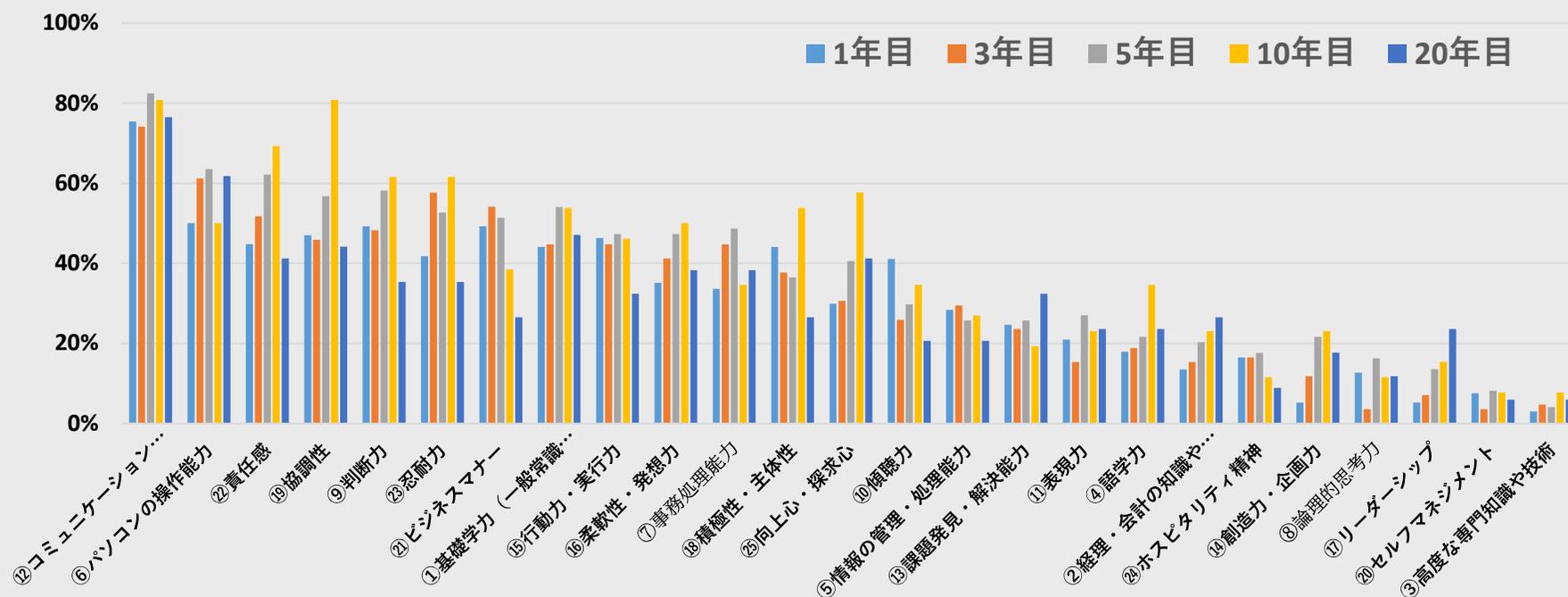


⑫コミュニケーション能力 が圧倒的に多い（8割弱が必要だと感じている）
その後は ⑥パソコンの操作能力、②②責任感、①⑨協調性、⑨⑨判断力（>5割）
➡「パソコンとチームで働く力」
下位は ③③専門知識、②②セルフマネジメント、①⑦リーダーシップ（<1割）
➡「職種や立場を限定するような能力」

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ③卒業生アンケートによる分析結果

卒業生アンケート『**社会に出て必要だと感じた能力**』（回答数353名）

就業年数別（1年目:134人、3年目:85人、5年目:74人、10年目:26人、20年目:34人）



「⑫コミュニケーション力」はすべての就業年数で> 70%

「⑥パソコンの操作能力」はすべての就業年数で> 50%

「⑫責任感」や「⑫協調性」はすべての就業年数で> 40%

トータルだと8番目だが、「①基礎学力」もすべての就業年数で> 40%

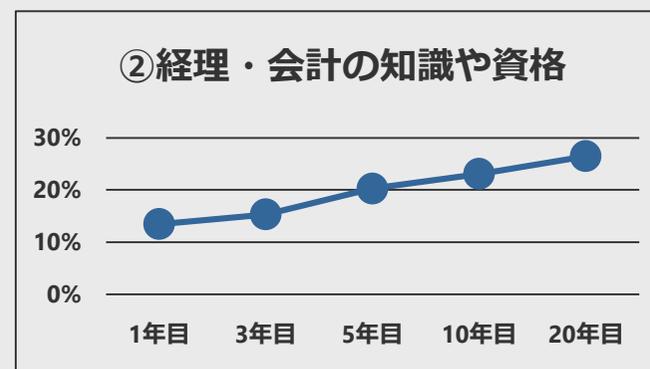
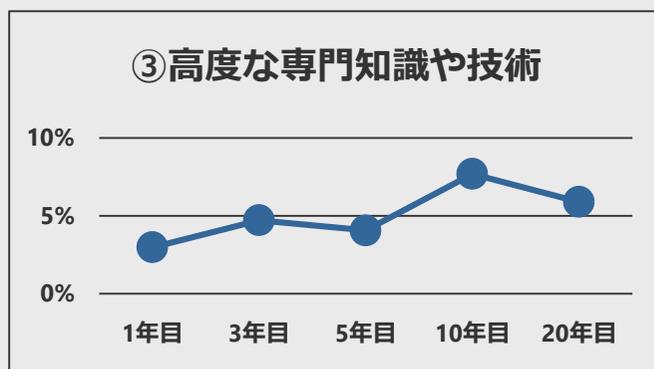
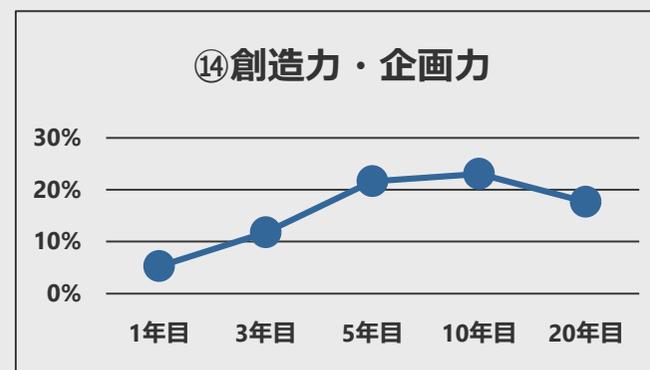
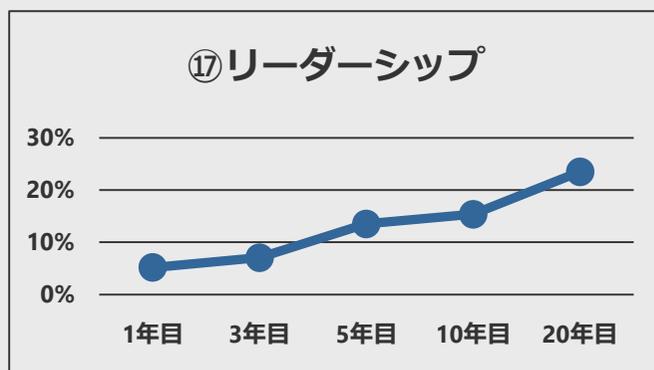
「⑫セルフマネジメント」「③行動な専門知識や技術」はすべての就業年数で< 10%

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ③卒業生アンケートによる分析結果

卒業生アンケート『**社会に出て必要だと感じた能力**』 (回答数353名)

就業年数別 (1年目:134人、3年目:85人、5年目:74人、10年目:26人、20年目:34人)

- ・就業年数が上がるにつれて必要だと感じる割合が**上昇している能力**



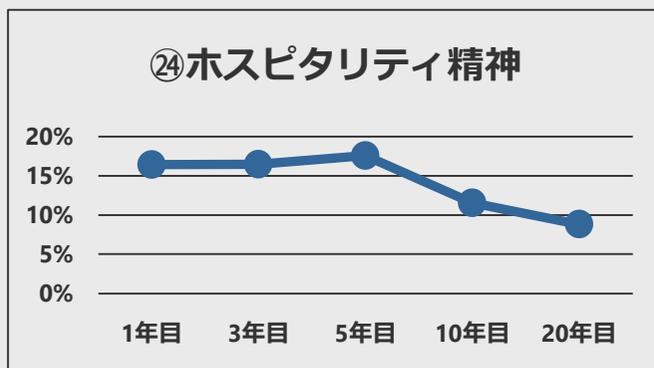
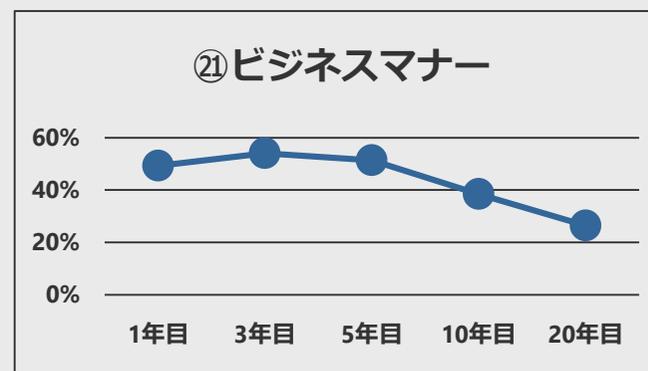
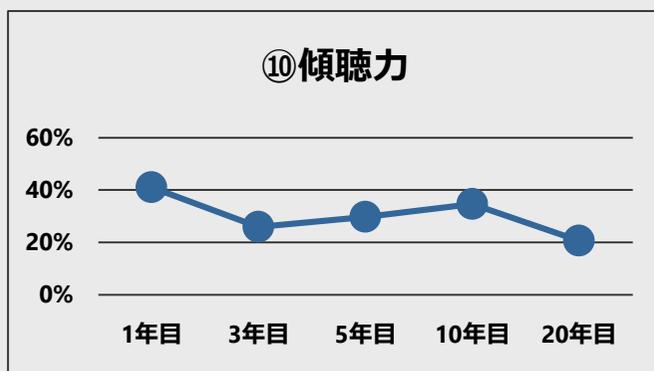
- ・全体では低い割合だが、イメージ通り。

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 ③卒業生アンケートによる分析結果

卒業生アンケート『**社会に出て必要だと感じた能力**』 (回答数353名)

就業年数別 (1年目:134人、3年目:85人、5年目:74人、10年目:26人、20年目:34人)

- ・ 就業年数が上がるにつれて必要だと感じる割合が**下降している能力**



- ・ 必要と感じていないというより、意識しなくても十分身に付いているのでは。

(2) 「指標(コンピテンス)」に対する評価 まとめ

- **学生**アンケートから
 - 2年間の学びの中で、多くの面で成長を実感している（らしい）。（例外は語学力）
 - 本学が意図しているとおりにかどうかは・・・？
- **企業**アンケート(社員に求める能力・採用した卒業生の評価) • **卒業生**アンケートから

知識・技能 + (1)情報リテラシー

卒業生自身も必要だと感じている

企業の社員に求める能力と企業の採用した卒業生の評価に差がない ➔ **強みの部分**

(2)論理的思考力

企業の採用した卒業生の評価は高くないが、企業の社員に求める能力も高くない ➔ **現状維持？**

(3)コミュニケーション力

多くの卒業生自身が必要だと感じている

企業の採用した卒業生の評価は低くないが、企業の社員に求める能力がそれ以上に高い

➔ **さらに上げれば、より強みに**

(4)課題解決力 とくに⑮行動力・実行力

(5)チームで働く力 とくに⑱積極性、⑳向上心・探求心

企業の社員に求める能力は高いが、企業の採用した卒業生の評価は低い

➔ **弱点の部分 積極的に成長する努力が必要**

(5)チームで働く力 とくに⑲協調性、㉑責任感

企業が社員に求める能力、企業が採用した卒業生の評価とも高い ➔ **強みの部分**

(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

学生の学習成果を目に見える形で社会に提示するための手法

問題点

- 就活時にマイナス評価となる可能性
- 活用方法があいまい（学生・教員・大学の連携がとれていない。）
- コンピテンス評価の客観性・根拠

対策

- 検証する期間をおく（コンピテンス評価の精度・企業への周知）
- 卒業時に卒業証書とともに配布することと定める

左ページ: 学生・学部・専修の取得に関する事項

1.1 氏名: _____ 1.2 学籍番号: _____ 1.3 卒業年月日: _____ 1.4 国籍: _____

2.1 学部・専修の基本情報 (専修): _____ 2.2 専修機関の名称: _____ 2.3 専修の種類: _____ 2.4 種別: _____ 2.5 所属する大学: _____

2.6 専修・専修について
主要専修の取得状況

	1年	2年	3年	4年
専攻	取得	取得	取得	取得
専修	取得	取得	取得	取得
英語	取得	取得	取得	取得
その他	取得	取得	取得	取得

その他の取得専修・履修状況

	1年	2年	3年	4年
専攻	取得	取得	取得	取得
専修	取得	取得	取得	取得
英語	取得	取得	取得	取得
その他	取得	取得	取得	取得

MOE/MCASW 42013
MOE/MCASW 42013

右ページ: 学位に関する情報

3.1 学位取得者: _____ (Full Time)

3.2 専攻: _____

3.3 専攻を履修する課程: _____

3.4 履修科目: _____

3.5 その他の取得情報: _____

4. ディプロマ(履修)内容に関する情報

4.1 学位取得について

4.2 学位取得の要件

4.3 ディプロマ(履修)内容に関する情報

4.4 ディプロマ(履修)内容に関する情報

2019年 3月15日

Shizuoka University

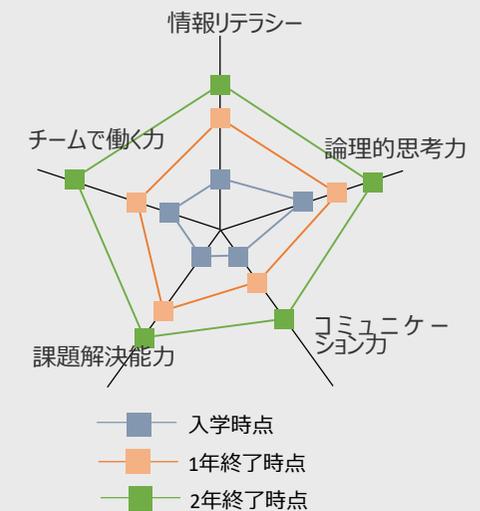
(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

- 対象 本学卒業生が過去10年に就職した企業 494社
- 実施時期 2018年8～9月
- 回収数 210社 (42.5%)
- 方法 郵送+Webアンケート
- 設問

社会で必要とされる能力を証明する書類について

右の図のような社会で必要とされる能力が、短期大学でどの程度身に付いたかを証明する書類の発行を計画しています。

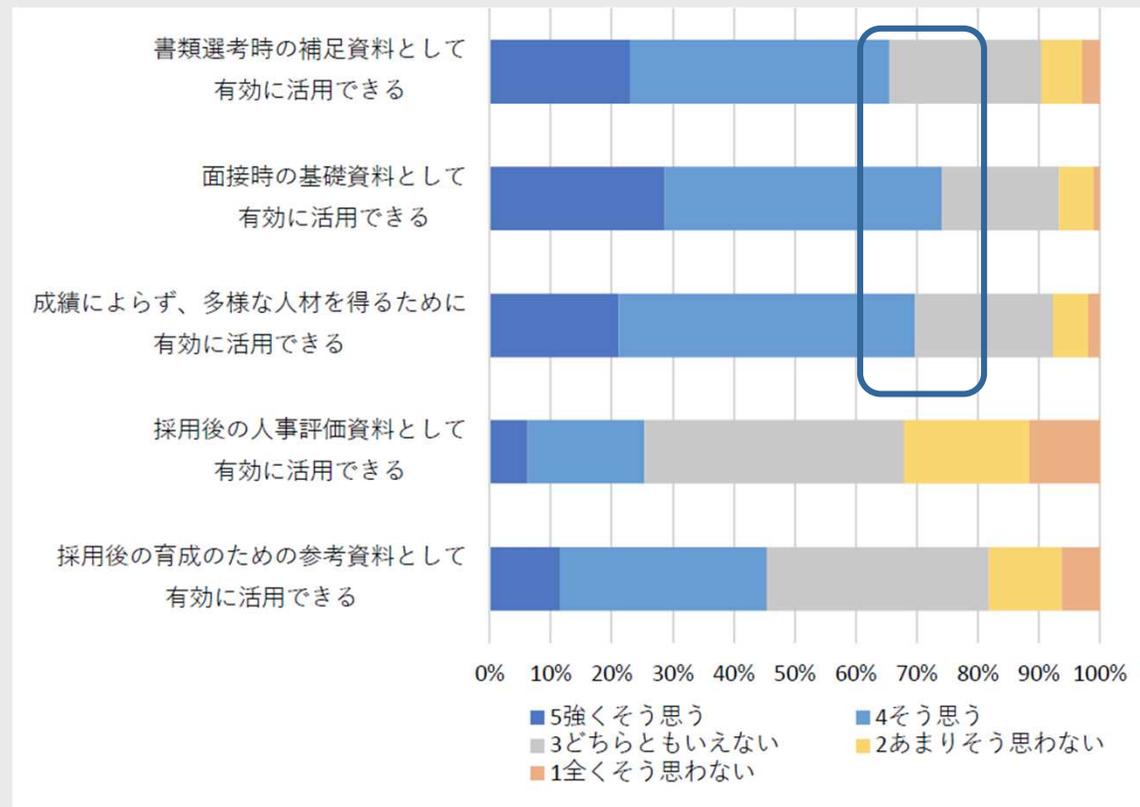
- (1) そのような能力を証明する書類は**貴社にとって有効に活用できそうか。**
- (2) そのような能力を証明する書類を有効に活用するためには、**能力とレベル以外にどのような情報が必要か。**
- (3) そのような能力を証明する書類を**採用選考で利用した場合、どのような影響がでるか。**



(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

企業アンケート（2018年8-9月 卒業生の就職先 解答数約200社）

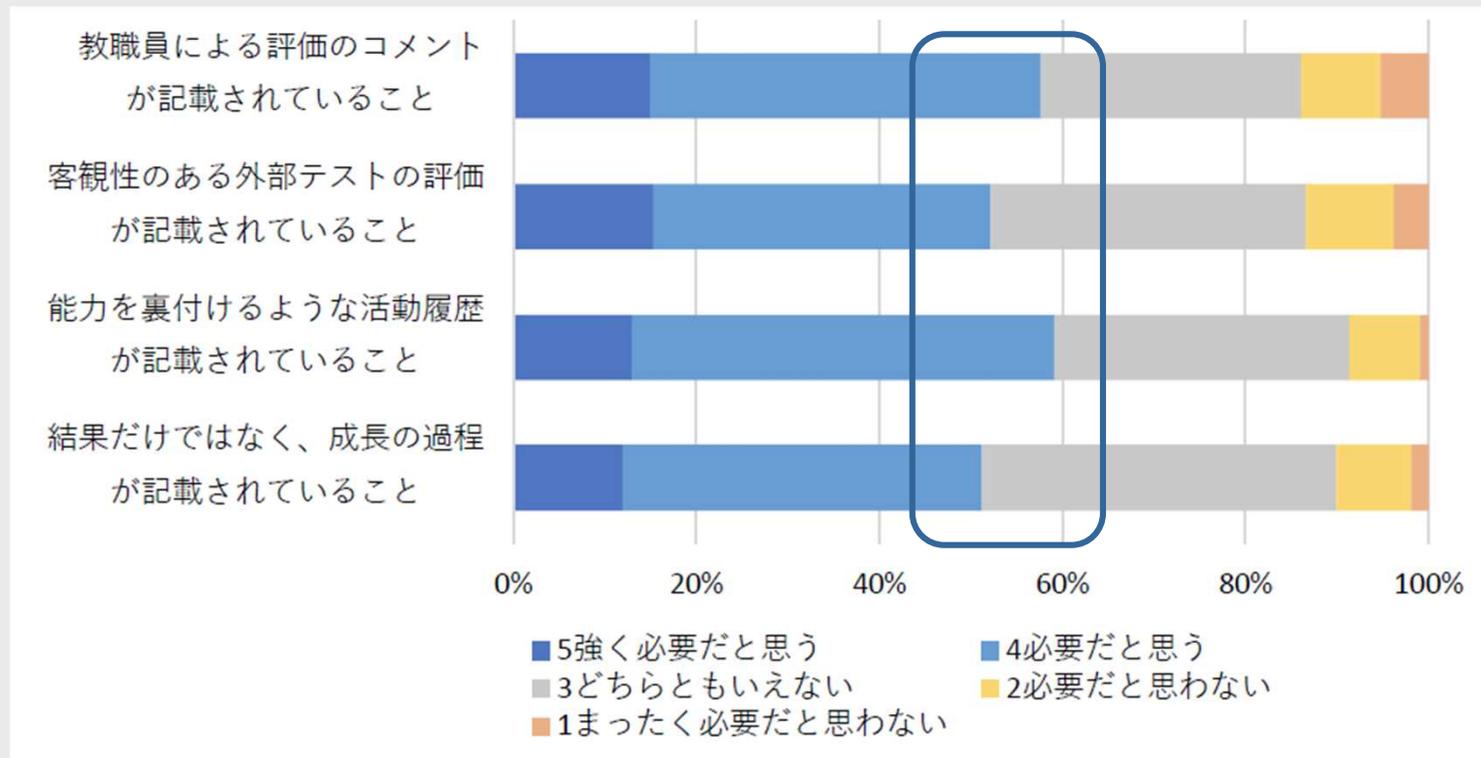
(1) そのような能力を証明する書類は貴社にとって有効に活用できそうか。



『その人物がよくわからない初期の段階での活用には有効』だと考えている企業が多い。

(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

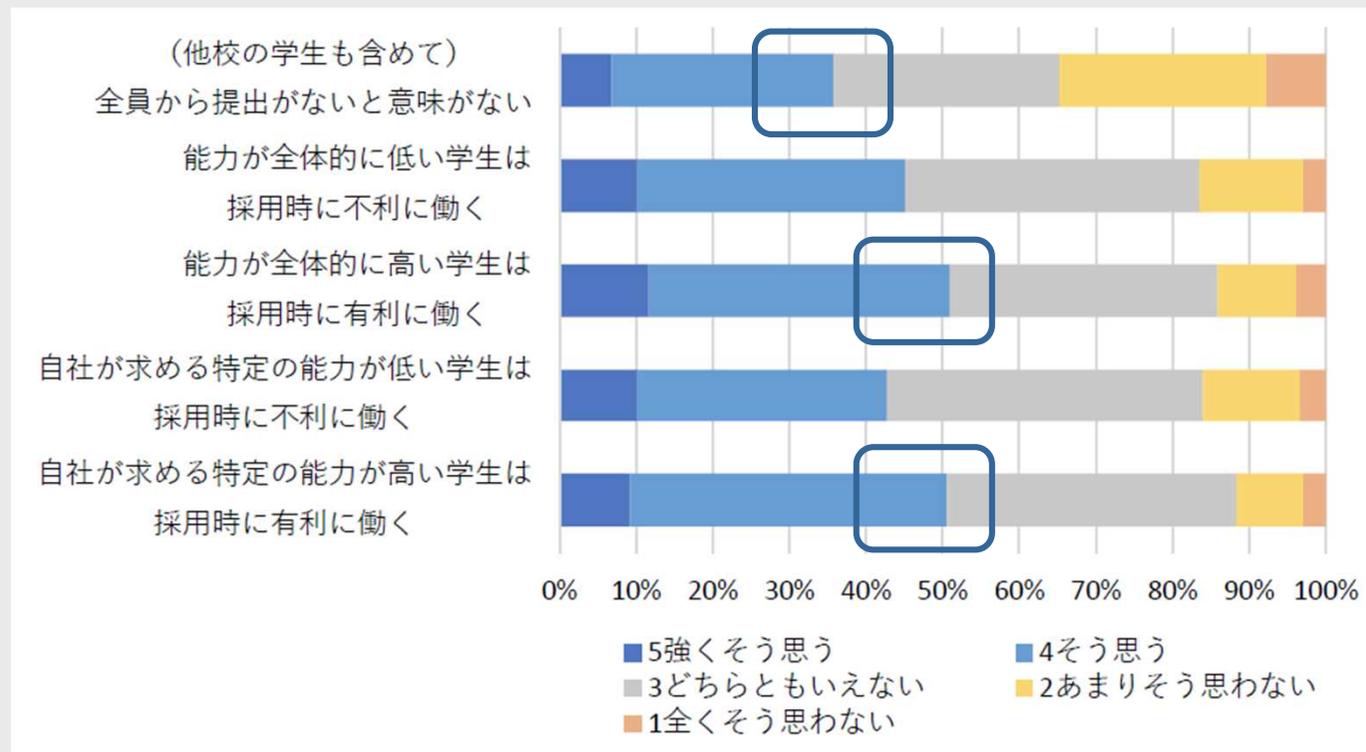
(2) そのような能力を証明する書類を有効に活用するためには、能力とレベル以外にどのような情報が必要か。



『半数以上の企業は、何をとは問わないが、客観的なエビデンスが必要だと考えている。』（必要だと思わないは10%程度）

(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

(3) そのような能力を証明する書類を採用選考で利用した場合、どのような影響が
 できるか。



誰かと比較するというより、『その学生の事（とくに秀でている部分）を知るのにディプロマ・サプリメントが利用できる』と考えているのでは。

(3) 「ディプロマ・サプリメント」に対する評価

企業アンケートより

- ディプロマ・サプリメントは、企業にとって、まだ学生がよくわかっていない初期の段階での活用の可能性はある。
- ただし、その客観性やエビデンスは必要で、それをどう保証（可視化）していくか。
- まだまだ大学の取り組みは、社会（産業界）に知られていない。

今後に向けて

- 客観性を高めるためのエビデンスをどう可視化するか
（詳細でなければ信頼されない ⇔ 複雑だと伝わらない）
- 企業と共同でルーブリックを開発できないか？
（多くの企業が納得できるものは難しい？）

- ご清聴ありがとうございました。